

上期は営業黒字を達成、 皆さんの努力に感謝します

社長 兼 CEO
沖津 雅浩



今週火曜日、当社は2024年度第2四半期決算を発表しました。既に報道もされていますが、今上期は、2022年度の上期以来、2年ぶりに、全社で営業黒字を達成することができました。

7月に現在の経営体制がスタートし、最初の四半期で早速こうした成果をあげられたことについて、私自身、非常に嬉しく思いますし、社員の皆さん一人ひとりの懸命な努力に、心から感謝しています。本当にありがとうございます。

1. 2024年度第2四半期決算

それでは決算のポイントについてお話しします。2024年度上期の業績は、売上高は対前年減収となりましたが、営業利益は大きく改善し、冒頭にお話しした通り営業黒字を確保しました。最終利益についても、投資有価証券の売却益等もあり、前年に対して大幅増益となっています。

事業別に見ると、ブランド事業では、スマートオフィスが第1四半期に続き第2四半期においても好調を維持し、上期全体で売上、利益とも対前年大幅伸長となりました。スマートライフ&エナジー及びユニバーサルネットワークにおいても、円安のマイナス影響を受ける非常に厳しい事業環境の中、

第1四半期、第2四半期と継続的に利益を計上することができています。この結果、ブランド事業全体では、前年上期に対して売上、利益とも二桁伸長となりました。

デバイス事業においても、ディスプレイデバイスの構造改革の効果もあり、第1四半期から第2四半期にかけて赤字幅が大きく縮小しており、上期全体でも、売上高が対前年減収となる一方、利益は着実に赤字が改善しています。

こうした結果を受け、決算説明会終了後、メディアやアナリストの方々から、「上期の営業黒字は良い意味で驚きだった」、「ディスプレイデバイスの赤字が縮小しており、構造改革の効果が出ていることを実感した」、「スマートオフィスや海外白物家電等、ブランド事業の重点分野での成長が確認でき、シャープが目指していることが形になり始めていると感じた」等、この間の当社の取り組みを好評価いただくコメントを多数頂戴しました。

また、今回の決算説明会を通じた私の感想として、これまでであれば、出席者からの質問の多くはディスプレイデバイス事業に関するものでしたが、今回はブランド事業に関するものも多く、社外の方の当社に対する見方が変わってきているように感じました。同時に、ブランド事業の成長戦略に対する注目や期待を改めて実感する説明会となりました。

下期もこの流れを継続し、年間公表値達成に向け、突き進んでいきたいと考えていますが、このためにはまず、足元の第3四半期において、実業の成果を示す営業利益をどれだけ積上げることができるかが重要になります。直近では為替が再び大きく円安に進むなど、事業環境は決して予断を許さない状況にあります。社員全員が今一度気を引き締め、利益の積上げに全力をあげて取り組みましょう。

また、こうした背景から、今年の年末商戦は、当社の今期の業績において非常に大きな意味を持ちます。各販売会社の皆さんには、「自分たちが全社の業績を牽引するんだ」という強い気持ちを持って、全力でこの商戦に挑んでいただけることを期待しています。共に頑張りましょう！

尚、今年度の最重要取り組みである「アセットライト化」の進捗状況については、決算資料に記載の通り、それぞれ最終局面に入りつつあります。なんとしても年度内にこれらのプロジェクトの決着をつけ、2025年度からの反転攻勢に繋げていきたいと考えています。

2. 最後に

既にご覧になった方もいらっしゃると思いますが、今週月曜日、11月11日のプラズマクラスターの日より、プラズマクラスター空気清浄機新製品のテレビコマーシャルを開始しました。他方、現在、スマートオフィス事業においては、ITサービスの強化を狙いに複数のM&Aの具体化も進んでいます。

先日の中期経営方針で示した通り、当社は今後、ブランド事業への投資を拡大していく方針であり、これからも、こうしたブランド投資やM&Aを積極的に行っていきたいと考えています。

現在、各事業において、将来の成長戦略の検討を進めていただいています。各事業のリーダーの方々は、こうした方針に沿って、これまでの延長線上ではない、より大胆な事業拡大戦略に挑戦していただきたいと思います。

繰り返しになりますが、今上期は順調な業績をあげることができ、良い形で新経営体制のスタートを切ることができました。今後もシャープグループ全員が一致団結し、第3四半期、第4四半期と着実に業績を積上げていきましょう。そして、半年後の本決算では、年間公表値達成を全員で喜び合いたいと思います。引き続き頑張りましょう！